

農作物技術情報 第4号 畑作物

発行日 令和元年 6月 27日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から「<https://i-agri.net/Index/gate002>」

- ◆ 小麦 小麦の刈取りは6月末頃から県中南部を中心に始まる予定です。子実水分を確認し、適期刈取りに努めましょう！また、倒伏した圃場や赤かび病が発生しているなど、品質に問題があるものは刈分けし、良質な小麦に混入させないようにしましょう。収穫・調製時に圃場の土が収穫物に付着しないよう注意しましょう。
- ◆ 大豆 概ね適期内に播種作業が終了しました。降雨による滞水が生じないように、排水溝等を確認しましょう。中耕は土壌処理剤の効果がなくなり、雑草が発生し始めてから行いましょう。培土は倒伏防止や、根系への酸素供給などに効果があります。培土は株元までしっかり土を寄せて、収穫時に土を噛み込まないように、高さが一定になるように行いましょう。

小麦

1 収穫作業前の事前準備

- (1) 小麦の成熟期は平年並となり、県内でも6月末頃から県中部を中心に収穫が始まる予定です。実際に穂を手にとって、子実水分を確認し、収穫の適否を判断しましょう。
- (2) カントリーエレベータや共同乾燥施設を利用して乾燥調製を行う場合は、受け入れ時間や荷受け水分を前もって確認しておきましょう。
- (3) 品質低下を防ぐために、事前に倒伏圃場や赤かび病の発生状況を確認し、どの順番で刈取りを行うかチェックしておきましょう。

2 収穫作業の注意点

- (1) 刈取りできる子実水分
成熟期になったら、子実水分を確認し、概ね30%以下になったら速やかに刈取りを行います。なお、普通型コンバインでは35%前後から、自脱型コンバインでは30%以下から収穫が可能です。
- (2) 子実水分の確認
子実水分は1日で大きく変動します。晴天には1日に2~2.5%程度低下するとされていますが、風がある条件では5%以上低下することもあります。
- (3) 刈分けの実施
降雨等で倒伏がひどい圃場や赤かび病等で品質に問題のありそうな場合は、刈分けし、良質な小麦への混入は避けましょう。
- (4) 異物混入の防止
収穫・調製時に圃場の土を収穫物に付着させないように注意しましょう。また、収穫時にコンバインによる土の噛み込みを防ぐため、できるだけ高刈りし、万一コンバインのヘッド部に土を噛み込んだ場合は、作業を止めて清掃を行いましょう。
収穫した小麦を運搬する場合は、急な降雨や異物の混入を防ぐため、シートをかけましょう。

※ 高水分小麦の収穫について

最近では自脱型コンバインの性能が向上し、水分の高い小麦を収穫できる機種も登場してきました。しかし、水分が高いと収穫時に粒がつぶれ、乾燥時に退色粒が発生しやすくなります。やむ

を得ず高水分での収穫を行う場合には、作業速度や回転数を抑え、ていねいに作業を行い、刈取り後はできるだけ早く（1時間以内）乾燥作業に入りましょう。

3 乾燥について

収穫された麦をそのまま長時間放置すると、変質し、異臭麦や熱損傷が発生します。刈取り後はできるだけ早く乾燥機へ搬入しましょう。また、乾燥機的能力にあわせて収穫作業をすすめ、速やかに乾燥を行いましょう。

(1) 送風温度

送風温度は子実水分が高いほど低く設定します。子実水分 35～30%では送風温度 40℃以下、子実水分 30%以下では送風温度 50℃以下とします。

(2) 送風温度の注意点

高温で急激に乾燥すると、熱損傷や退色粒が発生する場合があります。

(3) テンパリング

水分が高いほど1回当たりのテンパリング時間は短く設定します。（子実水分 30%前後では1時間以内）

(4) 張り込み量

乾燥機への張り込みは、循環型乾燥機では子実水分が 30%以下の場合は適正な張り込み量としますが、水分が高い場合は容量の 7～8 割程度とします。平型では堆積の高さを 20cm 程度に抑えましょう。

(5) 二段乾燥の実施

二段乾燥を実施する場合、水分が 17～18%程度になるまで一次乾燥してからビンやサイロに貯留しますが、カビ等の発生を防ぐため、通風により穀温は 20℃以下に下げた後貯留しましょう。また、一時貯留から 3～4 日以内に仕上げ乾燥を行います。仕上がり水分は 12.5%以下です。

大豆

1 概況

今年大豆の播種作業は平年並で、天候にも恵まれたことから、概ね適期限内に作業を終えることができました。出芽の揃いは良好で、初期生育も順調です。

2 排水対策の確認

大豆の生育初期は湿害に弱く、ちょうど梅雨時期と重なるため、圃場に滞水部分が出来ないよう排水対策は念入りに行います。明渠や水尻にゴミなどの詰まりや崩れがないかの確認、排水口（フリードレン下部）の掘り下げなどを実施します。

生育初期とは逆に、生育後期の大豆は要水量が大きく、開花期に高温・乾燥が続くと着莢数の減少により減収することがあります。そのような干ばつ時には、排水対策として設置した明渠や排水溝、畦間灌水対策として使用できます。

3 中耕・培土

(1) 実施時期

中耕・培土は、大豆の 2～3 葉期に 1 回目を実施することが一般的です。土壌処理剤の効果がなくなり、雑草が発生し始めたら早めに行いましょう。

(2) 中耕・培土の作業上の留意点

培土作業は収穫時に土を噛み込まないよう高さを揃え、株元まで土がかかるように行います。

(3) ディスク式中耕除草機

近年、土壌水分の高い転換畑でも作業が可能なディスク式中耕除草機が普及してきています。主なメリットは次のとおりです。

①高速作業が可能で、ロータリー式の従来機に比べ作業能率は 1.5～2 倍程度高い、②燃料消費量が少ない（ロータリー式に比べ面積あたり燃料消費量は約半分）、③湿潤土壌でも土の練り付けが少なく、適期作業が可能、④土壌の反転作用が強く、



写真1 改良型ディスク式中耕除草機

雑草防除効果大きい、⑤石等がある圃場での適用性が従来機より高い、⑥畦立て播種や曲がった条への適応性が高い、などです。

一方、デメリットとして、①乾燥した土の固い圃場では、ディスクの食い込みと砕土が劣る、②大きな雑草の破碎作用が不足、などが挙げられます。

なお、岩手県農業研究センターでは、ディスク式中耕除草機について、その除草効果を高めた改良型ディスク式中耕除草機（H25、写真1）および播種への活用を含めた一貫体系（H26）を発表しています。

興味のある方は最寄りの普及センターあるいは農業研究センターまで問い合わせください。

（H25年 指導）水田大豆の畦立て栽培に適応できる改良型ディスク式中耕除草機の効果

http://www2.pref.iwate.jp/~hp2088/seika/h25/h25shidou_06.pdf

（H26年 普及）ディスク式畑用中耕除草機を活用した大豆の一貫栽培体系

http://www2.pref.iwate.jp/~hp2088/seika/h26/h26fukyu_01.pdf

「改良型ディスク式除草機の組み立てマニュアル」

http://www2.pref.iwate.jp/~hp2088/library/disk_josou/josouki_manual.pdf

4 生育期の除草剤散布について

近年、広葉雑草を対象として、大豆の生育期に全面散布できる除草剤や、畦間あるいは畦間・株間に処理できる非選択性除草剤の登録が増えてきました。発生する草種や発生量を確認し、効果のある剤を遅れずに散布しましょう。特に難防除雑草が年々増加傾向にありますので注意が必要です。

生育期の広葉雑草を対象とした除草剤の使用方法和留意点は以下の通りです（表1、図1）。

表1 生育期に使用できる除草剤の使用方法和留意点

薬剤名	使用時期	使用方法	使用上の留意点
大豆バサグラン液剤 (ベンタゾン液剤)	だいたいの2葉期～開花前 (雑草の生育初期～6葉期)但し収穫45日前まで	全面散布	①大豆の上から全面散布が可能。 ②イネ科雑草には効果がない。広葉雑草でもシロザ、ツユクサ、エノキグサ、ヒユ類に対する効果が不安定。 ③晴天が続くときに使用することで除草効果を高められる。 ④ナンブシロメ、シュウリュウでは薬害を受ける場合がある。 ⑤散布後に発生する雑草には効果なし。
ラウンドアップマックスロード (グリホサートカリウム塩液剤)	収穫前日まで (雑草生育期：畦間処理)	畦間処理	①散布には吊り下げ専用ノズル、飛散防止用カバーが必要。 ②大豆にかからないように畦間だけに散布する。 ③散布後に発生する雑草には効果なし。 ④大豆バサグラン液剤の効果が不安定な草種にも効果が高い。
ロロックス (リニュロン水和剤)	本葉3葉期以降但し、収穫30日前まで (雑草生育期)	畦間・株間処理	①散布には吊り下げ専用ノズルが必要。 ②大豆の子葉と初生葉までかかるよう散布し、畦間と株間両方の防除を行う。 ③イネ科雑草には効果がなく、シロザに対して効果が不安定。 ④散布後の雑草発生に対して抑制効果あり。(土壌処理剤の効果あり)
バスタ液剤 (グルホシネート液剤)	収穫28日前まで(株間処理：本葉5葉期以降雑草生育期)	畦間・株間処理	①散布には吊り下げ専用ノズルが必要。 ②大豆の子葉と初生葉までかかるよう散布し、畦間と株間両方の防除を行う。 ③散布後に発生する雑草には効果なし。 ④大豆バサグラン液剤の効果が不安定な草種にも効果が高い。

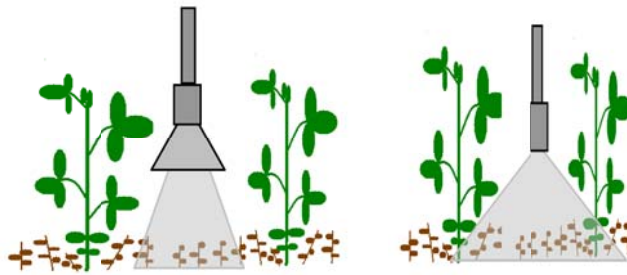


図1 非選択除草剤の散布イメージ
(左：畦間処理、 右：畦間・株間処理)

【資料利用上の注意】

- この資料に掲載している農薬の情報は、令和元年6月25日現在の農薬登録情報に基づいています。
- 農薬は使用前に必ずラベルを確認し、使用者が責任をもって使用してください
(資料作成年月日： 令和元年6月25日)

次回の発行予定日は7月25日(木)です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づき作成しています。発行年月日を確認のうえ、最新の情報をご利用ください。

農業普及技術課農業革新支援担当は、地域農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。

**6月1日～8月31日は
農薬危害防止運動期間です**

- 農薬散布時は、近隣住民・周辺環境に配慮しましょう
- 農薬散布準備、作業中・後の事故に注意しましょう
- 農薬は適切に保管・管理しましょう